

# 「お金と生活」

古厩 弘幸（県立松本筑摩高校3年）

われわれの住む社会は、資本主義社会であり、この社会においては、あらゆるものが貨幣単位であらわされます。僕が今着ている服も、今住んでいる家も企業の価値もあらゆるものが何円かで表現できます。そう考えるとお金とは、あらゆるものを示しうる価値そのものという気がします。価格はそのものの適正な価値を示します。市場が存在し、物にはみんなが納得する値段がつけられるからです。そう考えると、お金を持つということは、価値を持つということであり、その価値は、自分が欲するあらゆるものに、具体的に変化させることができます。したがってお金を通じ人は、自分の夢をかなえることができます。しかし日本では、お金が欲しいと公言することは何か卑しいことをいっているかのように捉えられることが多いようです。この前NHKで僕らと同世代の子供たちが自分たちの身の回りの様々なことに付いて議論をするという番組を放送していました。其のときのテーマにお金とは、そんなに生きていく上で重要なものかというテーマがありました。多くの意見は、お金は生きていく上でそれほど重要ではないというようなものでした。しかし別の意見を持つ人もいました。その人は、高校を退学し、両親のもとから離れ自分で働きながら生活をしている女の子でした。彼女にとってお金は生きていく上で非常に大切であり、お金のことを軽蔑する意見に対して彼女は憤慨しているようでした。僕たち多くの十代の少年少女ははまだ自分の進みたい明確な方向性を持っておらず、両親の庇護のもと何の不自由も無く漫然と毎日を送っています。その中で、自分の夢をかなえたり、自分の好きな職業につくために何が必要なのか具体的にまだわからない状態にあります。したがってお金というものを具体的な価値として認識できないのだと思います。だからお金なんてそんなに重要じゃないなどといえるのだと思います。しかし彼女にとってお金は生活そのものです。お金は、彼女に食べ物を提供し、また住処を与え、夢をかなえてくれるものなのです。彼女は生きていくことについてわれわれよりも知識があります。だからお金というものを具体的なものとしてイメージできるのでしょうか。そんな彼女にとってお金が卑しいという意見を彼女は生活の手段としても、夢をかなえる上でも必要な様々な具体的なものが卑しいといわれているのと同じことに感じられてしまったのでしょうか。

お金は価値です。それは個々の人にとって本当に必要な具体的なものに変わります。たとえば大学教育を受けたいと考えている人にとってそれは大学生活そのものに変わります。また、世界中を旅行し、様々な体験をしたいと考えている人にとってそれは具体的な体験へと変わります。また、病気で、高度な医療を受けたいと考えている人にとってそれはやはり医療へと変わります。そう考えるとお金を欲するという事は、自らにとって必要なものを欲するという事であって、全く自然な感情であると僕は思います。たとえば、この番組において、〈お金〉という言葉と、〈自分にとって本当に必要なもの〉という言葉に置き換えて議論していたらどうなったのでしょうか。絶対にお金、いや〈自分にとって本当に必要なもの〉を不要とする意見は出なかったことでしょうか。

僕たちはまだ若く、何がしたいか具体的にイメージできません。しかし彼女のように一人で生活し、自分が具体的に何を欲しているのかをイメージできれば、お金がかけがえの無いものとして感じる事が出来ることになるのだと思います。

しかし、なぜこうもわれわれはお金というものを卑しいものとして感じるようになってしまったのでしょうか。やはり国民性なのでしょう。しかしよくよく考えてみればお金は上で述べたように自分の夢をかなえるための手段となるもので、全く卑しいものではないはずです。それなのにそれが卑しいとされてきたのはなぜでしょうか。

私はその原因の一つに昔の日本人の生活が非常にシンプルであった事にその原因があると思います。身分が固定され、ほぼ自給自足の生活を送ってきた江戸時代の人々は、自分がしたいと思う事をしたくても出来ず、何世代にも渡り、祖父や父と同じ職業につかざるを得ないという状況にありました。その中で人は夢を失わないまでも減じていたという状況にあったのではないのでしょうか。そのためにお金をわれわれ若者のように具体的なものとしてイメージしなかった、いや、したくとも出来なかったのではないのでしょうか。このような状況の中で、人々が、いたずらに夢を抱いて、無意味な挫折をすることが無いように儉約が美德とされ、お金が卑しいものとされる構図が育まれて来たのではないのでしょうか。

今われわれのすむ社会は、自分が欲する事を、他人に迷惑をかけない限りで実現できる社会です。夢を持つ事は健全な事です。したがって夢をかなえる手段として、お金はもっと尊ばれてもいいはずです。今の景気の停滞状況がなかなか回復しないのはこの前近代の、お金や消費を悪とする構図を原因とするところが大きいと思います。せつかくやりたい事が出来る世の中に生きているのだから、お金についての考え方を改めて、自分の夢をかなえるためにお金を前向きに利用できるような柔軟さを持ちたいです。

だけど僕はやりたい事がまだ見つかっていない状態なので、先ずそれを見つける事からはじめたいと思います。そしてそれが見つかったら、それが実現できるように有効にお金を使っていけるようにしたいです。